

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.52 2019年5月31日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

裏門から通用口への道を塞ぐようなユキヤナギ、チャペルに近い植え込みのヤマブキ、正門から玄関に沿って咲き乱れるカクテルやテッセン、Y r 部屋前のモッコウバラも盛りを過ぎ、いよいよアジサイのつぼみが色づいてきました。それにしても、5月下旬の猛暑続きには驚かされましたね。御国の先取りは歓迎ですが、真夏の先取りは身体に堪えます。夜授業を終えて施錠と閉門に巡回すると、南東の夜空低く木星が煌々と。クラス時間に屋上で観望するのももうじきです。

「あなたは天の掟を知っているか。地にその法則を立てることができるか」(ヨブ38:33)。

校長 関野祐二

● 入学式から2ヶ月間を走り抜けて

お祈りいただいた入学式は、新規正規生7名、聴講生6名で迎えました。今年の特典は卒業生のプロカメラマン(2階廊下の山岳写真作者)による集合写真。後日大判プリントで配布されました。近年の傾向ですが、入学者の平均年齢が比較的若く(聖契らしくない?)、自分の息子娘世代もチラホラ。親子の口調にならぬよう気をつけています。春恒例の神学校親善ソフトボール大会、今年はセイケイがホスト校で、学生会は準備に余念なし。若い在校生がここ数年で増えたこともあり、優勝を狙ってグラウンドを借りた練習やら、バッティングセンター通いやら、廊下でことばを交わしても緊張感がただものではありません(わが伴侶も熱意に動かされ徐々にキャッチャーで参加)。神学校を臨時休校にして臨んだ、5月20日本番の結果は...。表彰式が土砂降りとなり、「これはセイケイの涙だ」と誰かが言ってましたっけ。今回の功労賞は初回に27点取られても明るく投げ続けたK兄と、受けるY r 先生のバッテリー。驚いたのは、六年前にホスト校校長として優勝カップを渡したピッチャーと、今回渡したピッチャーが同一人物だったこと(別の神学校ですよ)。おまけに帰り際挨拶に来られた夫人がなんと、親友の娘さんで二度びっくり。

● イスラエル顛末記

中身が濃すぎて体重が2kg減った聖契イスラエルスタディツアー。ありきたりの思い出話は他に譲り、自虐ネタ3本で攻めましょうか。あれは死海のほとり、塩分濃度10倍の死海水を温めたスパでの出来事。調子良く仰向けにぷかぷか浮かび、さあて出ようかと足を着こうとしたら、くるっと横転して顔が水没、目に激痛が走りました。もがいても強烈な浮力で足は着かず、思わず手の届いた肉塊にしがみつき、スーッと身体が浮いたと思ったら、なんと実行委員長がプールサイドまでお姫様だっこしてくれたのでした。学生会長に一部始終を目撃されたのは一生の不覚。エルサレムでの夕食自由行動、ぼっち飯を恐れて副団長にくっついて行ったら、コシェル(ユダヤ食物規定遵守)のバーガーショップで副団長に見放され、独りトッピングを選ぶ危機的状況に。まごつくオジサン異邦人に呆れた若いユダヤ店員の投げやりな所作に、ひどく落ち込みました。

そして今回のツアー最大の危機が帰路モスクワトランジットで訪れたのです。予定の1時間でも厳しいのに、テルアビブからの到着が遅れ、乗り換え時間が30分しかありません。「団長は後ろを振り返らず先頭に」と添乗員に促され、ロトの妻の心境で走れ走れ。同年代の副団長Y先生共々、途中で息切れして足が前に出ず、無念にも若者たちに次々追い越されたのでした。自分も含めて31名の誰も乗り遅れず、荷物もちゃんと積み替えられ、予定通り成田に到着出来たのは奇跡。安堵した団長は、帰りの機内で映画「ボヘミアン・ラブソディ」をゆったり鑑賞したのでした。

● エアコン工事始まる

夏が近づくと憂鬱になるのはこれが原因でした。教室や教員室が窓枠エアコン（いわゆる窓コン）ゆえ、動作音がウルサくてクラスのディスカッションが聞こえにくいし（ため息も）、背面の窓の開閉がどうにも面倒（閉め忘れて防犯リスク増大、開け忘れて高温にも）。約20年経過につき、学生ラウンジを含め五部屋を室外機付きに交換することを決め、工事が始まりました（寮室はいまだ窓コン。あと〇〇年待つて）。教室に窓コンは珍しく、これでようやく世界標準(?)に到達するわけですが、聖契卒業生の皆さんにはあの騒々しい窓コンの音がかえって懐かしいかも。チャペルにエアコンが付く前の、あの首長扇風機のぶっ飛びような強風もまた懐かし。ともあれ、予算超過で特別献金を受け付けていますから、別刷りをご覧くださいませ。おーい、ラウンジが快適すぎて授業やチャペルに遅刻しないよう、気をつけてヨ。草臥れたソファアでの寝冷えにも。

● 神学校でも科学相談？

夏冬休み特番のNHKラジオ第1「子ども科学電話相談」が、この4月から日曜午前のレギュラー番組になったそうです（礼拝中の盗み聞きはダメヨ）。車での遠出に愛聴していましたが、出てくる質問の鋭さに唖らされたこと度々。あれは昨年末でしたか、元気のいい小学1年男子が「人間はどうせ死ぬのに、何のため生きているのですか」とスゴイ質問。思わず耳をそばだてました。いつもは質問分野に応じて動植物や天文などの専門家が一人答えるのですが、これに限ってはその場にいた五人全員が回答。曰く、「これを自分はしたい、とすることをするために生きる」「生きる、それ自体のために生きる」「愛するため、他者の幸福のために生きる」「子孫を繋ぐために生きる」「学んだことを後世に伝えるために生きる」。公共放送の制約内でどれも良い答え、自分ならどう答えるだろうか、と考えました。三番目の回答は聖書にかなり近いかもしれませぬ。あえて加えるなら、「徹底的に愛される」ことがまずあってこそ、その人の存在が「神を愛し人を愛し、他者の幸福のため生きる」ようになるのでしょう。さて神学校クラスでのやり取りはこんな本質論が日常とはいえ、箸休めに最近の話題を拾った科学の問いもよく投げかけます。ブラックホール、相対性理論、量子力学などなど。被造物を理解し神を褒め讃えるため、と肩肘張らなくても、「この世界は不思議で楽しい」と思えるなら十分。科学問題と回答、クイズに出したいな。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- 4月より入学した13名を含め、在校生74名の学びが夏休みまで支えられるように。
- エアコン工事費用が賄えるように。今後の建物改修／新築計画のため。神学校運営が多くの方々の祈りと支援、定期的な献金サポート等の拡大により、安定的に守られるように。
- 本校が他校や諸教会、超教派諸団体、JEAや福音主義神学会と協力しながら、福音主

義キリスト教界の健全な神学研究と交流、情報発信、出版など良き働きを続けられるように。